

5 ジェンダー平等を
実現しよう



ジェンダー平等 ～考え方のアップデート～

日本では女性差別が多く存在している！なんてメディアで聞くことも多くなってきましたよね。SDGs目標5「ジェンダー平等を実現しよう」は、このような女性への問題に対処するために掲げられた目標です。女性の低い地位を上げていくことで、どんな性別であろうとも全員が平等に幸せになれる社会を目指す。「みんなで幸せ」、これって1つの理想の社会のカタチじゃないですか？

そんな社会を実現するためには、まずは今ある問題、性別不平等がどんなものなのか知ることが大切。さあ、私たちに身近な不平等のカタチに迫っていきましょう！

1 無意識 に気づくこと

内閣府の「人権擁護に関する世論調査」で「女性に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか」という質問に対し、職場における差別待遇や、「未亡人」のように女性にだけ用いられる言葉などの回答がありました。女性蔑視発言についての報道も話題になりました。改めて自分の言動に差別につながるものはないか見直してみましょう。差別をしている意識がなくても、社会に残る偏見があなたに差別をさせているかもしれません。差別につながりかねない偏見でもどのような偏見があるのか次のチェックリストで確認できます。ぜひ、チェックしてみてください！



参照：[法務省 人権擁護局](#)

2 たとえばどんな偏見が？

自分の生き方や性別は”自分らしく”決める。こうした価値観が広がりつつある現代、あなたの何気ない言葉が誰かの”自分らしさ”を傷つけていませんか。

| | | |
|--|---|---|
| “女なのに” <input type="checkbox"/> 料理しないの？ <input type="checkbox"/> 子供好きじゃないの？ <input type="checkbox"/> 仕事するんだ | “男なのに” <input type="checkbox"/> 泣くの？ <input type="checkbox"/> 力弱い | “その他” <input type="checkbox"/> なんで結婚しないの？ <input type="checkbox"/> なんで恋愛しないの？ |
|--|---|---|

これらはいくまで一例です。新しい価値観を知り、想像力を持つことが誰かの”自分らしさ”を守ることに繋がるのではないのでしょうか。

3 家事は価値あり

近年、家事をする時間が女性に偏っていることが問題視されています。内閣府がまとめたデータによると、無償労働時間の男女比(男性を1とした場合の女性の比率)が1番大きいのは、5.5倍の日本でした。日本男性の家事の時間を増やせない原因として、有償労働時間が比較国中、最長であることです。仕事時間を見直して、皆で家事分担をしましょう。そしてさらなる改善を目指しましょう！

最後に [TBS「逃げるは恥だが役に立つ」HP の「専業主婦の今日のお給料」](#)を紹介します。家事を行った時間を入力するだけでお給料が表示されます。ぜひ、家事をした時間、してもらった時間を入力してみてください！



参照：[内閣府 男女共同参画局 HP](#)

あとがき

まだ日本はジェンダー平等に関して後進国です。すべての人が誰一人とりのこさない社会にするために、今ある社会全体の問題を自分の問題として各個人が意識していくことが重要です。「平等」とは多様性を尊重していくことであり、性にかかわらず、すべての人々の人権が侵害されることのない社会をめざすものです。また、今日までの男女格差は、社会制度や文化、それによる社会的な空気と思い込みによるものが大きいです。そのため、自らの権利に敏感になり声をあげていくことが、ジェンダーにもとづく差別の是正につながっていくことになると、私たちは考えます。

環境 ISO 学生委員会 大竹晏吏 西谷早紀 川原一馬 小嶋ひなた 今井佳枝

